

博物館だより

第12号

時をききとむ

太陽の影



第20回企画展「時と太陽の物語」を記念して人類最古の時計である日時計を当館前庭に設置しました。

この日時計は、当館の位置に合わせて設計・製作し、設置に関しては天の北極を使って子午線を決めたため、均時差の補正をすることによって、±1分の誤差で時刻を読みとることができます。

種類	水平型日時計
文字盤の直径	60cm
設計	関 舜衛氏(日本文学会員) (上伊那郡高遠町在住)
台石	安山岩(松代町産)
設置場所	博物館前庭 東経138°11'29"・北緯36°35'17" 海拔350cm・偏角6°54'W

調査研究ノート

《犬石(篠ノ井有旅) の民俗調査より》

犬石は戸数40戸ほどの山間の小さな集落です。犬石はもと中山村といい、その歴史は川中島の合戦以前にさかのぼります。

その昔、武田信玄の陣が茶臼山に敷かれると村は合戦に巻き込まれてしまい、村自体が消滅してしまいました。それが寛文年間(1661~1672)にどこからともなく人が集まってきて村が再興されたといいます。その当時来た人たちがいわゆるシバキリと呼ばれる家の祖先たちです。

こうした村の生いたちを伝える犬石には、その名の通り犬にまつわる不思議な言い伝えがいくつか残っています。

その1つが、村はずれの犬石(犬の形をした石)にまつわる伝説です。この伝説については、犬石老人会会長の笠井朋一氏が古老から聞き取った話しを記録されています。以下それを引用させていただきます。

『この村は犬の形をした奇石から犬石という呼び名になった。百年ほど前、心無い者が用材にしようと頭の部分を割って石垣に積んでしまったとかで、犬石には頭が無い。しかし、長さ4メートル、高さ2メートル、胴回り5メートルもある大きな石である。

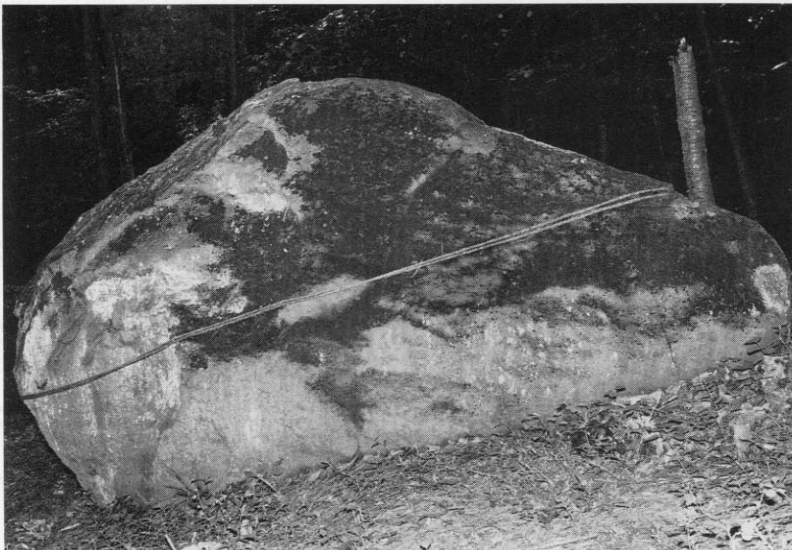
この石についてはこんな伝説がある。犬石のある平地を長者窪と呼んでいる。その長者窪に昔長者の屋敷があった。ある日、旅の僧が来られ、一夜の宿を乞いて泊られるに、その僧は大金を所持していた。長者はその金に目がくらみ僧を殺して金を奪った。そのたたりにて長者の家は絶えてしまったが、飼っていた犬は荒れ狂い人々を困らせていた。そこに産土神様うぶすながみがお出ましになり、犬をさとされた。すると犬は改心して屋敷の裏山に行き石に化身して、村を守るようになったという。また、一説には旅の僧は平家の落武者であったとも言われる。』

そして、もう1つが、犬と産土神様との因縁を説いた伝説です。

犬石ではつい最近まで犬を飼うことは強く戒められてきました。それは、『犬石の産土神様がチンコロ(犬)に追われて、ハイモ(里芋)ですべて、ゴマで目を突いた。』と伝えられるためです。そのため、犬石の産土神様は犬が大嫌いなのです。また、そればかりか、足をすべらしたハイモや目を

突いたゴマも犬石では作ってはいけないとされてきました。

しかし、犬石の人もうまくしたもので、犬石以外のところで作られたハイモやゴマは食べてもいいと言って、他所で作られたものを買っては食べていたそうです。



村の名の由来となった石

“菜の虫おくれ”



7月31日の虫おくりの晩、子どもたちは村の中を回りながらこうはやします。稲わらを大きく束ねて作ったみこしを子どもたちは担いでいます。みこしにはあじさいなどの季節の花が飾られて夜目にも美しい行列です。沿道ではこの行列が来るのを子どもたちの家族が待ち受けています。こうした虫おくりの行事が犬石では大昔から絶えることなく続いています。

この秋、博物館がおもしろい!!

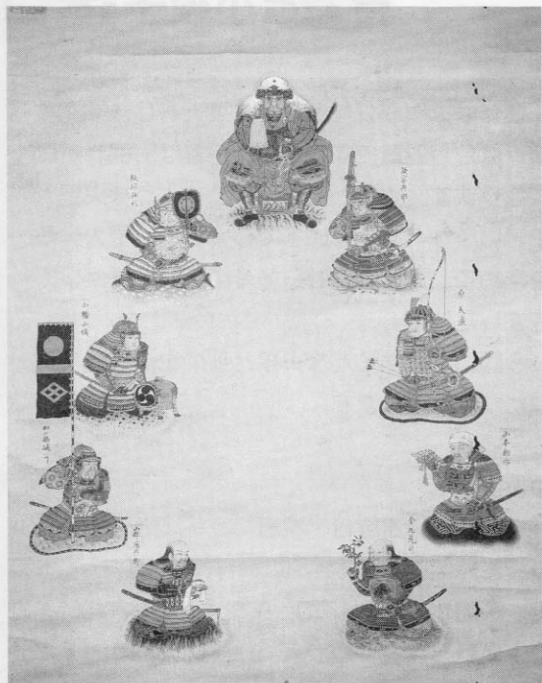
第21回企画展「信玄と謙信—川中島の合戦とその周辺—」が10月2日より始まります。

長野市の善光寺平は前後5回にわたる信玄と謙信の「川中島の戦い」が行われた地として有名です。特に永禄4年の激戦では博物館の周辺が戦いの場となったと伝えられ、今もなお「川中島古戦場」として語りつがれています。

この展示では中世末期の戦乱の世の中に生きた信玄・謙信や信濃の土豪たちの姿、また武士階級のみならず戦国大名武田氏の強力な農民支配により、武田氏の戦略の中にまき込まれていく農民の姿も少しでも描き出したいと思います。

また更に、NHK大河ドラマで用いた両雄の鎧を使って、武田二十四将旗と上杉十七将旗が翻る対峙の場面を再現します。

11月23日まで開催。



武田八将図
松代町原昌義氏蔵

博物館行事のご案内

◆山千寺銅造観音菩薩立像公開(重要文化財)
9月23日(秋分の日)~11月3日(文化の日)
於・博物館常設展示室

◆第21回企画展「信玄と謙信
—川中島の戦いとその周辺—」
10月2日(日)~11月23日(勤労感謝の日)
於・博物館特別展示室

◆企画展記念講演講演会
10月30日(日)午後2時より
「中世における甲冑の変遷」
講師 宇田川武久氏
(国立歴史民俗博物館助教授)

◆歴史講座(4回シリーズ)
10月22日(土) 第1回 律令制時代の長野盆地
11月5日(土) 第2回 荘園時代の長野盆地
11月19日(土) 第3回 中世城館趾 ①
12月3日(土) 第4回 中世城館趾 ②
講師 和田 博(当館専門員)

◆プラネタリウム・コンサート
10月29日(土)、12月17日(土)

◆天体観望会 10月7日(金)
大接近中の火星と秋の星座を観察します。
(次回は12月9日(金))

◆星座教室 11月13日(日)
プラネタリウムで秋の星座を学習します。

プラネタリウム

秋の新番組

賢二と小夜子迷コンビの火星調査

—12月18日まで—

今年は火星が17年ぶりに大接近をします。最近接近は9月22日ですが、その距離は5,881万kmになります。火星といえばタコのような火星人を思いうかべる人もいるでしょう。火星人間論を含めて、火星は昔から多くの話題を提供してきました。

今回の番組はそんな火星と秋の星座を迷?コンビが御案内します。

●投影日

土曜日・日曜日・祝日

●投影開始時刻

午前10:00・11:30 午後1:30・3:00

●入場料 個人 団体料金(20名以上)

一般	150円	120円
高校生	50円	40円
小・中学生	30円	20円



博物館だより No.12 1988.10.1
編集・発行 長野市立博物館
〒381-22 長野市小島田町八幡原史跡公園内
☎ (0262)84-9011